

令和4年度第2回行政評価市民会議

日 時：令和4年9月15日（木）18時30分～20時40分

場 所：鹿角市役所 第1・2会議室

出席委員：8名（全員出席）

出席職員：〔政策企画課〕課長、室長、主査2名

1 開会（進行：政策企画課）

ただいまから、令和4年度第2回行政評価市民会議を開会いたします。

2 会長挨拶

本日、2回目の会議となりますが、委員の皆さんが全員出席ということで嬉しく思います。本日は令和3年度の評価を検証する会議となります。行政評価について、皆さん感じるところがいろいろあるかと思うので、ぜひ意見交換していただければと思います。よろしくお願いします。

3 案件

（1）第7次総合計画前期基本計画行政評価結果について（資料1）

政策企画課説明

質疑応答

基本戦略1 活力を生む地域産業・生業を支える

特になし。

基本戦略2 元気で健やかな暮らしを支える

（委員）出生数が落ちていますが、子育て支援については、十分ではないかなと思っています。市民は、鹿角市の取組だけを見て評価していますが、秋田県の中で言えば、お金の面でも施設のにも子どもを見る環境は充実していると感じています。県内では支援レベルが高い方だということが分からないのではないかと個人的には思っていて、ただ求めるだけではなく、今ある支援でも十分だという考えも必要だと思います。個人的には出生数を増加させるためには結婚支援を充実していった方が良いと思います。結婚している人は、3人目の支援があるから頑張って3人目を産むという気持ちになるかもしれないですが、結婚するとかパートナーがいるとか、そういう雰囲気づくりをしていった方が将来的に長い目で見て効果が出るような気がします。妊娠・出産・育児は充実していると思っていますの

で、婚活も含め結婚に関してのサポートをお願いしたいです。また、健康寿命についても、ナトカリ値の測定など充実しており、個人的には頑張っていると評価していますが、指標の数値が出ているのでB評価で妥当かと思います。

(会長) ありがとうございます。基本戦略2は十分頑張っているように見えるけれども、数値的には評価はB評価が妥当かなというところですかね。他にご意見はありませんか。無いようなので、では次に移ります。

基本戦略3 快適で安らぎのある暮らしを守る

(委員) 評価としては妥当だと思いますが、リフォーム補助について物価が上昇していて、家も高くなっている状態ですが、物価変動を考慮して補助金額が決められているのでしょうか。

(会長) そういった部分はどうなっているのでしょうか。

(事務局) 委員が言われるとおり、ウッドショックの影響もありましたし、ウクライナ関連で物価等もどんどん上がってきており、リフォームする際の費用も掛かり増しになってきていると把握しております。令和3年度の評価としては、リフォームを実施したいという方の要望にお応えできる件数に対する予算は確保しておりました。委員が言われたように、実情に見合った支援ができるように、今後検討していきたいと思います。

(会長) ありがとうございます。他にどうでしょうか。

(委員) 2030カーボンニュートラルという言葉をよく聞きますが、どういうことでしょうか。鹿角市は早いと伺っていますが。

(事務局) 二酸化炭素排出量を実施ゼロにしていく取組になりますけれども、市では国よりも20年早い目標を定めております。その取組としましては、まずは、鹿角にある森林の総面積が広大であることを活用して二酸化炭素を吸収していきます。その他については、産業部門でどのような形で二酸化炭素を吸収しながら経済活性化に繋げていけるかを考えていて、今正に我々の方でカーボンニュートラルの達成に向けて検討を続けているという段階になります。

(委員) 「地域に合った公共交通手段を確保します」という取組方針のところで、カーボンニュートラルを掲げているのであれば、北秋田市のように電気自動車を推進する方向等を考えてもいいのかなと思います。今SDGsについて、小中学生は特に学習していて、若い人ほど意識が高い気がします。たんぼこまち号もそういった点を踏まえて、免許返納者を含めた高齢者の交通手段について、地球に優しい移動手段であってほしいなど。たんぼこまち号に限った話ではないかもしれませんが、電気自動車を進めたらいいのかなと思います。

(事務局) 一度に全て進めるのは難しいのですが、現在行政のどの分野でも二酸化炭素に結びつくような状況になっていますので、産業活力課で庁内の全課に対してヒアリングを行っており、今後どのような手立てで二酸化炭素を減らしていけるのかということを取りまとめている状況です。先程のバスの件についても、水素バスを走らせる取組などについても検討はしておりますが、いつ導入できるかということになりますと、もう少し先になるかと思います。

(会長) ちなみに、市長車はどのような車を使っていますか。

(事務局) 一応ハイブリッド車だったかと思います。

(会長) ありがとうございます。他に無いようであれば、次に移ります。

基本戦略4 暮らしの安全・安心を高める

(委員) 取組方針18を見ると、数値として出てしまうから仕方がないのかもしれませんが、評価における死亡事故の影響が大きいのかなと感じています。

(会長) そうですね。市民の満足度は高いのにC評価になってしまっています。

(委員) 災害で気になったのが、先月8月の3日と9日に大雨があり、被害等も結構出たようですが、水害対策は検討されているのかなと思いました。雨の降り方も以前と変わってきているように感じます。

(事務局) 今、学校の方では垂直避難といった新しい避難方法への取組がなされています。徐々にそういったものも浸透させていきながら、自治会や自主防災組織の活動に絡めていく必要があるのかなと感じています。

(事務局) 今回9年振りに同じような災害があったわけですがけれども、10年に一度大きな災害が訪れてきていて、スパンも段々短くなってきていると思います。その一端には環境的な問題もありますので、脱炭素化も進めていきますが、今すぐ行うべき大雨や河川の対策となると浚渫を行うことや護岸を強化していくことになろうかと思います。米代川は、県の管理になっておりますので、県と協力しながら進めていきたいと思います。

(会長) よろしいでしょうか。そうすれば、次に移ります。

基本戦略5 未来に羽ばたく人材を育てる

特になし。

経営戦略1 まちに人・モノ・外貨を呼び込む

(委員) 低い評価となっていますが、コロナ禍という社会情勢の中でやむを得なかったこともあり市民の皆さんからも納得してもらえないのではないかと思います。

(事務局) 我々も不可抗力の部分、どうしてもできなかったという部分を感じています。例えば取組方針24の「稼げる観光振興を進めます」で言いますと、外国人観光客の年間宿泊客数を指標として掲げていますが、目標4,540人に対して実績は7人でした。ただ、やはり指標として掲げている以上は、ここは甘んじて低くなったという評価を受け入れなければならないものと思っております。また、例えばですが、コロナ禍において宿泊客を直接増やせないとしても、オンラインにより何らかのサービスを提供してお金を得るという方法も考えていかなければならないのかなとも考えております。

(会長) そうすれば、行政の方でもC評価というのは仕方がないなという状況なんですかね。分かりました。それでは、次に移ります。

経営戦略2 「世界遺産のまち」をつくる

(委員) ヘリテージツーリズムとは何なのか教えてください。

(事務局) ヘリテージは遺産という意味で、ツーリズムは観光を指します。鹿角は文化資源が豊富にあ

りますので、そちらと観光政策を融合させながら観光消費額を拡大させていくことを目的としており、観光と文化の融合政策となります。これまで文化と言うと教育委員会が所管していて、どうしても稼ぐという部分に結びつかない取組が多く、保存がメインであったり学術的な部分の評価であったりしたのですが、鹿角には豊富な文化資源がありますので、それを活用して外貨を稼ぎ、観光客から来てもらうという取組をここでやりたいということになっています。

(委員) 最近、ストーンサークル館が凄く賑わっています。1つ気になったのが、日本国外の世界遺産だと、大体は近くでご飯を食べられるところや地元のお土産を買えるところがあると思います。大湯環状列石の場合は、湯の駅まで移動する必要があるのが難点ではないでしょうか。ストーンサークル館の中では体験するイベントや展示があって、先日私も久し振りに展示を見て良いものだと思ったのですが、館内で買えるお土産はストラップくらいしか無いのが残念だなと感じました。世界遺産なので周りも保護区になっていて、商店のようなものを作るのは難しいのかもしれないですけども、湯の駅おおゆまで行く前に、地元を売り込むお店が近くにあってもいいのではないかと個人的には思います。観光バスで来れば湯の駅まで連れて行って貰えると思いますが、個人で来ると湯の駅への案内看板もあまり無いため、もう少しアピールしてもいいのかなと、もったいないなと感じています。館内の展示は凄く良くて、お金を出して入る価値はあると思っています。

(委員) 鹿魂祭は、10月1日、2日に大湯ストーンサークル館で開催すると聞いています。

(会長) A評価ということに対してはいかがですか。

(委員) もの凄く頑張っていると思いますし、評価的には問題ないと思います。ただ、外の看板が少ないため、ガイドさんがいたりパンフレットを持っていたりしないと分かりづらい気がします。中々看板等を立てづらいのしょうけれども、もっと館内に表示があっても良いのではと思います。

(委員) 人は来ていて、車も多いと感じていますが、周辺に店が少ないのが残念です。

(会長) 賑わっている人たちが、観光というか道の駅に結びついていない可能性もあるということでしょうか。

(委員) これから外国人もどんどん入ってくるとしますので、それに合わせて英語の表記や音声案内を含めて、取組方針28で取り組んでもらえるものと期待しています。

(会長) A評価ということについては、問題ないですかね。ありがとうございます。それでは、次に移ります。

経営戦略3 まちの経営力を高める

(会長) 光ファイバー利用について、市全域を網羅したということよろしいですか。

(事務局) 人が居住している場所についてはカバーしているということになります。例えばリンゴ畑の中に家を1軒建てたとしても、そこはカバーしていない可能性があります。全市的に網羅しているというよりは、住んでいるところに張り巡らしているという状況です。

(会長) はい。他によろしいでしょうか。そうすれば、案件1の評価に関しては、事務局の評価から変更無いものとしてよいと思いますが、よろしいでしょうか。案件1について、事務局から何かありますか。

(事務局) 今までの話し合いで一体的に取組方針についてご議論いただいたのかなと思いますが、そ

ちらについても総合戦略室の評価でご意見等無ければよろしいです。
(会長) よろしいですかね。はい、それでは案件2に移ります。

(2) 鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略の評価について(資料2) 政策企画課説明

質疑応答

基本目標1 未来を拓く 稼ぐ力を高める地域づくり

(委員) 少し戻ってしまうかもしれませんが、総合戦略にも関係あると思うので。基本戦略1の資料で「働きやすい就労環境づくりを進めるとともに、子育て世代の女性の就労環境の整備～」という記述があり、戦略の方でも「農林業の新規就農者の確保～」とありますけれども、基本的にこの部分では資格取得の補助を中心に進めていて、働きやすい職場環境づくりが少し足りない気がします。アドバイザーの先生からも、「男性就業者の多い産業構造」が若年女性転出の一因になっているのではという意見があります。今働いている会社で子どもを産みますといった時に、働きにくいというのは言いつらいと思うので、もう少し働きやすい環境づくりに対しての支援を行政でしてもらえればと思います。そうすれば、農業だろうと林業だろうと、休みを取れたり病院に行きやすかったり、子育てで行事に行けるという環境があれば、大きく職種を増やさなくても、今ある職種だけでも十分なのではないかと考えます。そういう見方をすると、市で行っている資格取得の補助だけでいいのかと気になるわけで、JAや商工会と一体となって市で工夫できないかとお願いしたいです。女性の立場で見て、こういうことが出生率にもつながるような気がします。特定の分野や職種で、女性が雇用の受け皿になっているのは分かりますが、資格を取ることを優先している感じを受けたので、もっと資格取得支援以外で、働く環境重視の取組がなされるといいなと思いました。

(事務局) 取組が足りないというご意見だと思いますが。

(委員) 足りないというわけではなく、資格を取ることも大事だと思っていますし、林業で女性が大型免許を取るのに補助します、のような大胆な取組があっても良いと思います。大型車に乗っている女性も多いですし、林業が盛んなところの他県の例を参考にインパクトのある取組をしてもいいと思っています。ただ、会社を経営している側が、どうやったら働きやすいかというのを市の人たちと話し合うとか、そういう機会や場所が無いと改善されないと思います。働く側としては、産休・育休を取得しても、会社から責められることの無い状況が徹底されれば、働きやすくなるし、Uターンも増えるのかなと思います。資格補助だけではなく働きやすい環境づくりを広く捉えて欲しいなと思います。

(事務局) 委員の言われるとおりだと思いますし、必要なことは資格を取ることだけではないのではないかとことは我々行政の方でも思っています。今回の第7次総合計画では行政だけで進めるのではなく、企業や市民の方々からも協力を得てみんなで取り組むという枠組みになっているので、取組の方向性に書いてあるように市民企業も一緒にやっていきたいと思いますという記述になっています。働きやすい環境づくりとなりますと、やはり行政というよりは企業側の取組が大事なのかなと思います。現状としては売り手市場になっておりまして、資格が無くても採用しており、採用後に資格を取得するというパターンが多くなっています。ですので、女性若者の資格取得支援については、低

調になっていますので、委員が言われる資格取得支援だけではなくて、違う取組もあるのではということについては、今後次年度の予算のところで詰めていきたいと思っています。

(委員)「若年女性の転出」のところでのアドバイザーの意見に対する回答の中で、今の20代、30代の女性が勤めているのは宿泊業、飲食サービス業、医療・福祉関係が多く、建設業や製造業、運送業の女性が少ないとの記述がありますが、市としては福祉関係の方に力を注いでいくという方針という意味でしょうか。

(事務局) これは方針ではなく、データに基づく客観的な分析結果となります。女性で建設業や製造業に就きたいという方もいるでしょうし、男性で飲食業や宿泊業、福祉に携わりたいという方も多数いると思います。傾向として、このような状況が見えているということであり、市としては色々な方が様々な職業に就けるような支援策が大事と考えています。男女の隔て無く資格を取得していただきながら雇用創出につなげるということで、資格取得支援という指標を第7次総合計画に掲げていましたので、引き続き性別を問わず支援していきたいと思っています。

(委員) 今建設業で働いていて、県からは建設業で働く女性を増やそうという取組に関してのお知らせが届くのですが、市からはそういうのが無いなと思ひまして。市としては、そういう取組をどのように考えているのか気になりました。

(事務局) 市としては、女性がこの業種で少ないので、特定の業種に対して力を入れていこうというのはまだありません。広く若者が夢や希望を叶えられるような、自分がやりたいことなどの意見を聴きながら受け皿を作っていくことが、大きな柱の1つになっています。建設業については、傾向として男性が多いといった偏りがあって、そこに女性の力を注いでいかなければいけないと考えておりますし、特に除雪オペレーターは男性でも少ないという状況になってきているので、我々としては男女を問わず人手が足りないところに人が集まる支援をしていきたいと思っています。そのためにも、まずは、ここに残っていただくためのことや、若しくはUターンしていただくためのことに力を注ぎながら、そういうことを希望する方が地元就職できるようなフルサポートをしていけたらなと考えています。

(委員) つまり、建設業や製造業、運送業の人数が足りない現状はあるものの、基本的には個人の希望をサポートするという意味ですか。

(事務局) 市で特に一番力を入れている分野として稼げる産業というのがありまして、戦略的には製造業、観光業、農業、これらがやはり鹿角が生き残っていく上では重要な産業だと思っています。重点分野の産業に関しては、就職を促すというよりは会社、団体、個人農家の経営力を上げていくことが一番大事だと考えており、そちらに対する支援制度等を手厚く戦略的に行っております。企業側からも積極的に支援制度を活用いただきながら、どんどん雇用を増やしていただけるような取組につなげていきたいと考えています。

(委員) 企業に対する支援策というのは、企業に発信しているのですか。

(事務局) 基本的にはホームページで行っていますが、企業訪問なども産業活力課で行っており、その際に支援制度の説明をしていますし、相談があった際には支援制度について産業部門それ以外の部門でも積極的に発信しています。発信が足りないということであれば、我々の方でも力強く発信していきたいと思っています。

(会長) ありがとうございます。今の説明は、大変分かりやすかったと思います。

(委員) アドバイザーの先生の意見に「指標や目標値の見直しの検討の余地があるのではないか」とあり、その回答として「目標値の見直しも含め検討していくこととしたい」とあるのですが、WEBコンテンツの動画再生回数について、実績値が28,738回とあり、個人的には凄いと思うのですが、元々の基準が高い目標設定では無かったのではないかと気になります。更に言うと、観光振興に資するということを考えた時には、再生回数という数値だけではなくて、再生された結果その人がどのような行動を起こして鹿角に寄与したかが重要なのではないかと考えていて、そこを数値化するのが難しいのは分かるのですが、今後目標値のみならず指標そのものの見直しで検討してもらえるのかという点が気になりました。

(事務局) 再生回数について、この基準値は以前に動画の再生コンテンツを作成した際の再生回数を基にした数値であり、それを基に3,000回から4,000回の再生回数があれば当初に比べて大きな成果であろうと考えていたところです。しかしながら、実際には非常に多くの再生があり、設定した目標値の是非についても内部評価の際に担当課との間で話題となりました。今後の再生回数動向も含めながら、この在り方については検討を進めてまいりたいと考えています。

また、再生回数だけではなく、その先の大きな成果につなげる必要があるのではないかとこの点について、たしかに観光客が来て市内でどういう動きをしたのかというところまで把握できれば理想ですけれども、なかなかそれを把握するのが難しく、数値化できない部分があります。しかしながら、現在、観光部門では地域DMOとともに観光データを取り、マーケットを把握しながらマネジメントしていく業務を進めており、少なからず海外への情報発信や全国への情報発信をした後に鹿角市にどのような入込みがあったか、不確実な部分もあるかとは思いますが、そういう動向をデジタルデータで分析しながら観光施策に活かすという取組を行っていますので、結果をしっかりと受け止めながら次年度への計画づくりに反映していきたいと考えています。

基本的に、KPIはアウトプットで表しているのので、成果の部分と繋がっていないように見えるのかなと思いますけれども、資料にある観光消費額がアウトカムになるので、Webコンテンツの再生回数が伸びていくことで最終的に訪れる人が増えて市内での観光消費額が伸びたというところで評価していただければと思います。

(会長) 動画を観た人の地域や国は、分かるようになっているのでしょうか。

(事務局) はい。少し解析が必要らしいですが、どこから来たとか分かるみたいです。フェイスブックであれば年齢や性別などが分析できるようになっているようです。

(会長) そこをターゲットにしていくということも可能になると。

(事務局) はい。観光部門は、正にデジタルの強化を進めており、ターゲットを絞ってそこに予算や労力を使うということに注力しています。

(委員) 鹿角市で観光地を紹介する際、たんぽ小町ちゃんを活用していると思うのですが、あれをデジタル化してもいいなと思います。道の駅スタンプラリーもデジタル化になっているので、お金は掛かるとは思いますが、それでアンケートを実施してどこの県から来て、何を目的にきたのか分かるか情報として活かせると思います。さらに、そういったところに鹿角市の良い写真を活用することで、観光しながら写真を撮るとかも巻き込んで、外からの視点も取り入れられるのではないかなと思います。

動画の再生回数が伸びてくれるのは良いことだと思っているので、どんどん配信して、観光客がいっぱい来てくれることを望みます。

(事務局) スタンプラリーはあんたらあでやっていますが、去年はフェイスブックで情報発信しながら特定のターゲットに対して行っています。費用対効果を考えたときに、デジタル化することによって掛かり増しになることもあるのかもしれないですけども、幅広い年代やターゲットに対して色々な手段を講じられたら理想だと思っていますので、そういったことも含めて検討課題だと認識しています。

(会長) 基本目標1についてはよろしいでしょうか。では、次に移ります。

基本目標2 未来を拓く つなぐりを築く新しい人の流れづくり

基本目標3 未来を拓く 若い世代の希望をかなえる社会づくり

(委員) 結婚支援の充実のところで、結婚報奨金とありますが、これは何でしょうか。

(事務局) 結婚サポーターがいまして、仲人さんにあたりますが、男性と女性をマッチングして成婚につなげるという業務を行っているのですが、マッチングした1組が結婚したら、その方に対して報償費を支払っています。

(委員) サポーターは何人くらいいますか。また、イメージがあまり湧かないのですが、イベントでマッチングして、結婚に至らせるスタッフのような感じでしょうか。

(事務局) 正確な人数では無いかもしれませんが、11人くらいであったと記憶しています〔確認したところ、令和4年3月31日時点で8人〕。イベントのスタッフやコーディネーターとは別になります。普段の生活で他人に対して世話好きな人というイメージです。あそこにこういう良い男性がいましたよ、という情報を知り合いの女性に教えてあげて、会って見ないかと持ちかけるような、逆も然りですけども。

(委員) 専門的な人が11人いるということですか。

(事務局) いや、全くの一般の方です。ですので、誰でもやっていただけるものです。

(委員) なるほど。婚活イベントとかでマッチングさせたらそのスタッフに支払うというのであれば妥当ではないと思ったのですが、今の話を聞いてそうではないのが分かりました。

(事務局) 成婚して届け出を出したというのが判明した時点で、私が仲介しましたと申し出てもらって報奨金をお支払いしています。

(委員) 分かりました。この事業自体を知らなかったもので確認しました。ちなみに、アドバイザーの先生が言われている「結婚お祝い金」というようなものは無いのですか。利子を負担してあげるという貸付だけでしょうか、30万円くらいの補助があったような気がしましたが。結婚サポーターは貰えるけれども、当の本人たちは出産しないと貰えないのですね。結婚お祝い金という言葉が凄いいなと思っていて、お祝い金があるから結婚するののかという話にもなりますが、出産した時のお金のように支援してあげてもいいかなと思います。

(事務局) 結婚新生活支援事業がありまして、結婚した際に30万円まで家賃や引っ越し費用等に使っていただける補助(補助率10分の10)となっています。ただ所得制限があり、二人で400万円未満という若い方々向けの制度になります。

(委員) 先程の結婚サポーターの話も今の新生活支援の話も、もっと分かりやすくなっていると良いで

すね。良い制度があるのに、知られていない感じがして勿体ないと思います。でも、10分の10という補助は、力を入れている感じがして良いと思います。

(委員)「適切な医療が受けられる環境の構築」のところで、研修医が2年目で4人、1年目で2人となっていますが、その他に医師修学資金を借りている方はいらっしゃるのですか。

(事務局) 現在、市の医師修学資金を借りている方は6人のみとなります。

(戸館委員) 初期研修中とありますが、修学資金を借りて在学中の方はいないのですか。

(事務局) そうなります。全員が卒業しており、市外の病院で研修中となっています。

(委員) 6人の方は県内の方でしょうか。

(事務局) 県外の方だったと思います。〔正しくは、県外3人（北海道札幌市、神奈川県川崎市、福岡県福岡市）、県内3人（秋田市、能代市、鹿角市）。〕

(委員) 今、新しく小児科等の病院が建つ予定で有難いと思うのですが、厚生病院では色々な科で曜日が決まっていて予約しないと診てもらえない状況になっていて、お年寄り等には不便なので改善されないかなと思っています。個人病院だと診てもらえるのですが、耳鼻科の個人医院は無いため、どうしても予約をしなければならない状況にあります。市でも対応が難しいのは分かりますが、開業して貰えたら有難いです。もう少し安心して医療が受けられればいいかなと思います。

(委員) 厚生病院には産婦人科、分娩できる環境は来年度からできますか。大館市立病院まで行かなくてもいいようになればよいのですが。

(事務局) まだ、現状のとおりです。

(委員) 外来はやっていても、分娩はできないと。

(委員) 国の方針が集約化になってきていますものね。中々難しい問題だと思います。毛馬内皮膚科ができて、厚生病院は週1回だったかと思うのですが、助かっている人は多いのかなと思います。ただ、耳鼻科は無いから大館まで行かないといけませんし、市立病院も予約が必要で紹介状が無いと受け付けて貰えない状況です。仕事をしていて子どもがいると、予約時間に合わせるのが大変かなと思います。テレフォン病院24があっても助かっていますが、それでも急変した時に隣の市まで行かなければならないのは大変ですし、この調子で個人医院が増えていくといいかなと思っています。

(会長) そうですね。医療関係は、市民アンケートでも重要度が第1位ですからね。そこは、切実な思いです。

(事務局) 来年2月に開院される病院は、小児科と呼吸器科と耳鼻科ができる予定と伺っています。少し遅れるかもしれませんが。

(委員) 子育て世代は、耳鼻科と小児科があれば非常に助かると思います。

(会長) 基本目標3についてはよろしいですかね。では、次に移ります。

基本目標4 未来を拓く 新たな時代に対応した魅力的な地域づくり

(委員) 前回も話しましたが、商店街の空き店舗の利活用について市民も期待していると思うので、もっと充実していただけると有難いです。新規で起業する方が、中心市街地エリアでお店を開くのに支援できれば良いかなと思います。

(事務局) 中心市街地エリアで起業をされた場合には50万円の補助金があり、さらに空き店舗バンク

に登録している物件であればプラス20万円という制度があります。こちらでも商店街での起業を誘導していきたいと思っています。ただ、どうしても車社会ですので、起業される方も駐車場があるところを選ぶ傾向にあって、もう少しインセンティブが必要なかなと思っています。

(委員) 鹿角市ではコンパクトシティを目指しているので、公共交通のこともありますが、将来的なことでは、中心部にスーパーマーケット以外の食べ物を売るお店などがあったら高齢者も住みやすいのかなと思います。

(委員) 大湯にはスーパーが無く、不便だろうなと思います。

(委員) 大湯では、コンビニで購入するとコンビニの人が配達してくれる工夫がなされているみたいです。スーパーは無いですけどね。

(委員) 毛馬内はユニバースがありますね。多分、大湯の人もユニバースで買い物をしているのだと思います。

(事務局) 出店される際は、やはり商圈を考えて、そこにある程度の人口密度が必要だったりライバル店があるかであったりをマーケティングして出店してくると思います。現在、花輪の中心市街地には空き家・空き店舗が増えてきているのですが、中心市街地を維持するためには緩やかに人口を集中させていくことが必要と考えています。そこで高齢者になっても歩いて買い物に行けるような街を形成できれば、中心部が維持されていることにもなると思います。そういう意味で、今あるスーパーマーケットで足りるのかどうかはまた別に議論すべきと考えますが、徐々に人口密度が低くなっている現状がありますので、今進めている中心市街地活性化プランでは、いくらかでも中心市街地の人口密度を高くしていきたいと考え、取り組んでいます。

(委員) 昔は大湯に同友がありましたが。今はそこにグループホームやショートステイの施設が建ったでしょう。団塊世代の人が多いから仕方ないのかもしれないけど、福祉施設ばかり建ってしまって、コンビニはあるのでしょうけれども、本当に大湯の人は大変だと思います。若い人であれば車で移動できるかもしれないけれども、年寄りには移動が難しい気がします。

(委員) たんぽこまち号の利用は年々減少しているのですか。

(事務局) はい、わずかにですが減ってきており、定員乗車密度も昨年度より減少しています。令和3年度は公共施設の利用者が少なかったことがバス利用にも影響していると捉えておりまして、もしコロナ禍が無ければ横ばいだったのではないかと考えています。

(委員) アドバイザーの先生が言われるように、コロナ禍の影響は大きかったのかなと思います。さっきの話にも出ていた予約診療のことも影響を与えているのではないかなと思います。病院も毎日やっていたのが、週3回になって、それが週1回になると、それだけ病院に来る人も少なくなるのかなと。そういうことが無ければ、街中からバスに乗っていく人は割と多いイメージがあったので。

(事務局) そうですね。病院でもある程度制限されている中で、厚生病院を利用されている方も多い印象がありますので、そういう制限とコロナ禍の影響が利用率に表れているものと思います。

(委員) 新しく病院ができと言っていました、その周辺にはバス停はありますか。無ければ大変ですよ。

(事務局) 現状では無いのですが、クリニックができた際に必要だという声もありますので、検討している状況です。

(委員) そういうことをよく議員さんが質問されると思って、伺いました。バス会社との調整も必要ですものね。

(事務局) はい。勝手に決められるものではないものですから。

(委員) 色々な要望に対して乗合タクシーや公共交通の課題が書かれていますが、乗合タクシーは使っている人は多いものですか。

(事務局) うまくいっているところと段々使いづらくなってきているところとあるようです。根市戸毛馬内線ですと年間250人ぐらいの利用があるとのことで、収支も合っているようです。根市戸毛馬内線がユニバースまで行く路線になります。

(委員) 数人で組んでいっているみたいですね。

(委員) 八幡平地区や根市戸地区の乗合タクシーや乗合交通は、距離によって料金が変わるものなのですか。一律なんですかね。お金が高いから使われないとかあるのかなと思ひまして。

(委員) お金は500円くらいで乗れるのですが、駅までしか行かないので、駅から病院まで乗り換えて行かなければならないというのに不便を感じて使わないという意見は聞いたことがあります。ただ乗っただけで何百円も掛かるのに100円で行けるわけではないですけど、100円出して病院まで行けたらいいなと思います。

(委員) 病院に行きたい人が5人中3人いたとしても、駅からのバス路線の時間に合うタイミングで最初の人が集まらなないと乗合いにならないということですか。

(委員) どうなんですかね。乗合タクシーを手配するのは1人でも夏井線は可能みたいなのですが、行く距離や停車場所が決まっていると聞いています。要は歩くのが苦手な乗合タクシーを使うとか、バス時間が都合良くないから乗合タクシーを使うのだと思います。

(委員) 毛馬内には孫の手（介護タクシー）もありますものね。結構使われているみたいですよ。入会金5千円で、あとは使う度に4人で2千円余りだったかと。

(委員) 実際バスに乗れば500円では済まないの、駅までであったとしても得なんですけどね。20分くらい掛けてバス停まで歩いて、それからバスに乗って何百円も払うことに比べれば、有難い取組だなと思います。八幡平地区で利用が減っているとすれば、年寄りや住民自体が減っていることもあるかもしれないです。

(事務局) 榎内夏井花輪線で行くと、メーター運賃が55万円掛かっていて、乗客からは7万円貰っているの、その差し引きを委託料として市が支払っている状況にあります。人数で割り返すと1回あたり335円になっています。乗る距離の長さとかもあるかもしれないですけど。〔榎内夏井花輪線の令和3年度実績：メーター運賃553,700円、乗客からの運賃計72,400円（約@335円/人）、乗車人数216人〕

(委員) バスに乗ることに比べたら、かなり安いですね。

(事務局) それでも乗客のいないバスを走らせるよりは、予約してもらって必要な時だけ走ることで経費が抑えられています。

(委員) 地球にも優しいですね。大事な事業だと思います。

(事務局) バス停がない交通空白地帯と呼ばれる地域が出てくると、デマンドとかを検討してみないかと自治会の方にお話しして、利用する方がいると見込みが立つのであれば市でも支援するという流れ

になっています。

(委員) ヘルパーの方も送り迎えをしてくれますよね。

(事務局) 介護保険を使う方であれば、ヘルパーの送迎もあります。

(委員) 介護保険を使っていなければダメでしたか。そうですね、介護度によって介護サービスを受けないと送迎も無いですね。市からのタクシー券についても、昔だと老人世帯と1人暮らしには1万円出ていたという話ですけれども、今は月1千円とか1人暮らしだと月600円になっていて足りないという声を耳にします。

(会長) よろしいでしょうか。事務局に確認したいのですが、市民アンケート実施結果や総合戦略の推進状況等は市民の方も見ることはできるものですか。

(事務局) 市民アンケート結果はホームページに掲載しています。また、行政評価市民会議というページが市のホームページの中にあるのですが、これまでも会議の度に資料をそちらに掲載しており、併せて会議の議事録についても掲載することで、委員の皆様からこういった発言がありましたということをお知らせしております。

(会長) 総合戦略に見られるSDGsのマークは、今回というか昨年から取り入れたのですか。

(事務局) SDGsは第7次総合計画から取り入れており、それぞれの取組方針ごとに、どの目標を達成できるかというのを設定していき、それに倣って総合戦略の方も関連するアイコンを設定しています。

(会長) 正式名称を忘れましたけど、SDGsに関する県のパートナー制度に市も登録しているのですか。

(事務局) SDGsパートナーですね。市では登録していないのですが、SDGsの推進に協力していただいている企業は、鹿角市でも何社かいると伺っています。

(会長) 同じ目的を持っていることで繋がることあるのかなと思ひまして、期待しているところです。

(事務局) パートナーに登録しなくても推進している自治体は全国にたくさんあり、県の進め方に限らない手法で推進する企業やネットワークもできていくと思いますので、まずはSDGsの目標達成に向けて、総合力を発揮しながら市としては取り組んでいければと考えています。

(委員) これから外国人がインバウンドでたくさん来るようになると、SDGs好きな人も来るかもしれないですね。市のホームページも英語表記でも見られるようにしたり、SDGsのアイコンを取り入れたりすると注目されるのかなと思います。カーボンニュートラルの話も、国より早いということで注目が高まっていると思いますし。子どもたちもSDGsの勉強を沢山しているので、市政に興味を持ってくれるのではないかなと思います。

4 その他

(事務局) 今回の会議で令和3年度の評価について、ご意見を頂きました。この後、本日頂いた意見を市役所内部で報告いたしまして、令和3年度の評価を今月末に決定したいと思います。それから、今回の評価をもとに令和5年度の予算編成作業に入っていきます。次回は、3月頃にいただいたご意見をこのように反映したということを報告したいと考えていますので、その時はまたよろしくお願い致します。

5 閉会（20：40 終了）